



待降節第4主日 (ルカ 1:26-38)

小教区再編

待降節第4主日、天使のお告げでマリアにイエスの誕生が予告される場面が福音朗読に選ばれました。今回説教は2014年の原稿をもとにしています。マリアは人間の知恵では完全に把握できない出来事を受け入れようとします。人間が知恵を巡らせても把握できないとき、どのようにして出来事を受け止めるのか、マリアは教えてください。

聖堂入り口に、先週から「アンケート」とその「回収箱」を置きました。お知らせをしなかったのは失敗でしたが、内容は「小教区再編について」です。すでに教区報などでも取り上げられていますが、現状で77ある小教区すべてに主任司祭を派遣できておりません。小教区の数より主任司祭の数が少ないのです。この状態は一時的なものではなく、これからもずっと続くことが予想されます。

そこで、二つの質問を書いたメモを用意しました。平戸地区は小教区が8つあり、そのすべてに主任司祭が派遣されています。しかしこの状態は恵まれているのであって、ひょっとしたら次の人事異動では、8つの小教区に対して7人（あるいは6人）の主任司祭しか派遣できないと言われるかも知れません。そうなった時、田平小教区の信徒としてどんなことを要望したいですか、書いてみてください。

あるいは、これからの司祭減少傾向に対応するため、平戸地区を7つの小教区（または6つの小教区）に組み直すかも知れません。そうなった時、田平小教区の信徒としてどこまでは受け入れられますか、どんなお願いをしたいですか、考えて書いてみてください。

こんなお願いをして、「いきなりそんなこと言われても困る」と気を悪くされるかも知れません。ですが一歩引いて考えてみてください。「無い袖は振れない」のです。「平戸地区はずっと8人の主任司祭が与えられて当然です」とばかり言えなくなっています。「平戸地区の小教区を減らすなんてとんでもない」とばかり言えなくなっているのです。

長崎教区の神学生が、中学・高校・福岡の大神学院、合計12学年で25人くらいしかいなくて、彼らが12年間でかろうじて半数司祭まで辿り着く。しかしその頃までに同じだけの数、いやそれ以上の現役の司祭が引退する。明らかに、司祭数は減少していきます。田平教会が助けあげられること、田平教会がここまでは受け入れられるということ、それらを一歩引いて考えて、回答用紙に記入して投函してください。

福音に戻りましょう。今週はイエスの誕生が予告される場面が選ばれました。天使ガブリエルが、特別なメッセージを携えてマリアのもとに遣わされます。天使ガブリエルは、神から託されたメッセージをそのまま届けますが、マリアは出来事の大きさに戸惑います。自分が身ごもって男の子を産み、その子はいと高き方の子。ダビデの王座につき、永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがないと言うのです。

マリアは、天使のお告げが何のことか分かりません。天使が続けて

説明してくれるかもしれないので、「どうして、そのようなことがありえましようか」(1・34)と問いかけます。天使は、マリアの理解を超えるこの出来事は、聖霊の働き、いと高き方の力に包まれて起こることだと説明しました。

ここで、マリアが人間的な理解力に頼って判断しようとしていたら、判断を誤っていたかもしれせん。出来事は人間の理解を超えることだったからです。人間が正しく判断できる事柄は、人間の理解が及ぶ出来事に限られます。それ以上のことを正しく判断するのは、もともと人間には不可能なのです。

そこで、マリアは一步引いて考えました。自分は主のはしため、主の召し使いではないか。主人が自分をよいように計らってくださるはずではないか。それなら、自分の考えの及ばないことまで考えておられる主に信頼して委ねよう。

考えの及ばないことを示された時、一步引いて考えるとよい判断にたどり着くことがあります。世の中に、騙されて泣く人がいますが、その人は自分だけで判断しようとして却って騙されるのです。もし一步身を引いて、近親者や第三者にひとこと相談すれば、大金を騙し取られる人はもっと少なくなるでしょう。そのように、一步引いて考えるとき、目の前だけでなく、もう少し広く見渡せるようになり、少し遠くを見通せるようになるわけです。

マリアは一步引いて考えました。一步引いたとき、主なる神が出来事を中心にいて、導いていることを知りました。出来事がどのように進んでいくのかは分からなくても、主なる神が中心にいて働かれるのだから信頼して受け入れよう、そう決断したのです。一步引いて、見えなかったことが見えるようになり、恐れに囚われていた心が解放されました。

人間が知恵を巡らせても把握できない場面で、どのようにして出来事を受け止めるのか、マリアは教えてください。それは一步身を引いて考え、観察することです。思い通りにならないこと、いくら言っても理解してもらえないことなど、わたしたちの生活には「なぜ？」と言いたくなるいろいろな事があるでしょう。

それら難しい出来事に、マリアはお手本を示してくださいます。あなたの立っている場所から、一步引いてみなさい。そうすることで、見えなかったものが見えるはず。マリアは人類に与えられる救い主の母となる場面で、率先してお手本を示してくださったのです。「いや待てよ」とか「もう一回考えてみよう」と立ち止まったり一步引いたりすることは、本当に必要なことを見極めるため必要な時があるのです。マリアがそれを教えてくださいました。

マリアが一步引いて考えてくださったことで、神が人を救う計画がいよいよ実現しようとしています。歴史の中心に神が置かれて、歴史が動こうとしています。わたしたちも、神の計画の前に一步身を引くことを学びましょう。人間が一步引くことで神が出来事を中心にになり、出来事は最高の結果をもたらし、わたしたちは喜びに満たされます。